

市政トピックス

マイナビ仙台レディースホームタウン協議会が発足

9月から新たに開幕した女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」に、東北から唯一参入するサッカークラブ「マイナビ仙台レディース」を支援するため、「マイナビ仙台レディースホームタウン協議会」が8月27日に発足しました。仙台市、宮城県、宮城県サッカー協会、仙台商工会議所等で構成されるこの協議会では、女子サッカーの普及を通じて、スポーツ振興や地域の活性化などを推進していきます。



協議会設立発表会



発表会では、浜田選手(右)と國武愛美選手(左)によるユニフォームのお披露目も行われました

9月1日には、協議会の設立発表会を開催。郡市長は「コロナ禍

市政トピックス

の今、スポーツの力で仙台を元氣付けられるようなプレーを期待しています」とエールを送りました。キャプテンの浜田選手は「サッカーを通じて宮城を盛り上げ、これまで支えてくれた方々にWEリーグ初代女王という結果で恩返しできるような頑張ります」と、優勝に向けた強い気持ちを語りました。

市政トピックス

全国都市緑化仙台フェア実行委員会が設立されました

9月2日、第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会設立会議が開かれました。国内最大級の花と緑の祭典である「全国都市緑化フェア」は、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的に、令和5年4月26日から6月18日まで本市で開催されます。

実行委員会は、経済・観光、造園・緑化、まちづくりなどの各団体の代表者98人で構成。同日、オンライン形式で行われた第1回総会では、8月に策定した基本計画が説明されたほか、本年度の事業計画が承認されました。また、仙台フェアのシンボルとなるロゴマークも発表。

「クも発表。ロゴマークは仙台市で活躍しているデザイナー・千田瑞恵氏によるデザインで、「みどり」を舞台に人が輝く「未来の杜づくり」をコンセプトに、人々の思いとアクションで育てる未来の杜が1本の木で表現されています。今後、実行委員会では、実施計画の策定や会場設計などを進め、開催に向けた具体的な準備に取り組んでいきます。



▲仙台フェアのロゴマーク。成長や復興、発展等を鮮やかなグラデーションで表しています

市政トピックス

困難を抱える女性を支援—女子のためのほっとスペース

市では、さまざまな悩みを抱えた女性を対象とした出張相談会「女子のためのほっとスペース」を8月から開始しています。この相談会は、コロナ禍による生活困窮や生きづらさなどの困難を抱える女性が、孤立することなく支援機関につながるきっかけをつくることを目的に実施するものです。初回の相談会は、8月22日に中小企業活性化センターで開催。会場には、子育てや貧困など、さまざま

市政トピックス

映画「護られなかった者たちへ」が仙台シネマに認定

市の観光振興やシティーセールスに貢献する映像作品を認定する「仙台シネマ」の第8作目に、10月1日から全国一斉公開される映画「護られなかった者たちへ」が認定されました。東日本震災をテーマの一つとして描かれたこの作品は、ほぼ全てのロケが本市や県内各地で行われました。ロケ地などの詳細は、せんだい・宮城フィルムコミッションのホームページで公開しています。

市政トピックス

スズムシの音色の復活を目指して

スズムシが市の虫に制定されてから、本年度で50周年となります。仙台のスズムシは「七振り鳴く」と呼ばれ、かつて宮城野原に多く自生し、秋の夜長に美しい音色を奏でていたと言われています。しかし現在は、都市化の影響で、その鳴き声を聞くことが少なくなっています。宮城野区中央市民センターでは、地域団体「すずむしの里づくり実行委員会」と協働で、スズムシの音色が再び聞こえるま



▲原町小学校で行われた出前授業では、児童がスズムシの生態などを熱心に学んでいました

ちを目指して、10万匹のスズムシの飼育や生態調査などに取り組んでいるほか、市民センター等でスズムシの展示を行うなどの普及活動も行っています。

7月30日・31日、8月3日には、スズムシの配布会・交換会が宮城

市政トピックス

行財政改革の取り組みを進めています

野区内の3カ所で開催され、459人が来場しました。会場では飼育箱作り体験や飼育の相談会も行われ、訪れた方が熱心に飼育方法について確認し、大事そうにスズムシを持ち帰る様子が見られました。今後、スズムシが市の虫として親しまれ、涼やかな鳴き声が響く豊かな自然環境を継承していく活動を続けていきます。

「仙台市役所経営プラン」に基づく令和2年度の行財政改革の実績を取りまとめました。新型コロナウイルス感染症の影響などを踏まえ、実施項目について一部修正を行い、令和2年度の効果額は約58億円で、計画当初からの累積効果額は約25.2億円となっています。

主な取り組み実績
 ■市税や国民健康保険料等の収納率の向上
 ■民間活力の導入
 ■オンライン手続きの拡充および情報システムの最適化

市政トピックス

3.11 震災文庫

「百年の孤舟」

志賀泉 / 著
荒蝦夷 / 刊

著者の志賀泉さんは南相馬市小高区出身の太宰治賞作家。東京電力福島第一原子力発電所事故後の故郷を舞台に、4つの短編を綴ります。表題作「百年の孤舟」は、かつての海辺の風景と事故直後の現実が時空を超えて交錯し、主人公兄弟の確執はそのまま文明社会の在り方への問いかけともなっています。読者は事故がもたらしたものの重さにおののきつつも、最後に一筋の光を見いだすでしょう。

刊行は2021年3月。志賀さんは「この本を書くために小説家になったのかもしれない」と語りました。担当編集者としては、これが作品として熟成するには10年という時間が必要だったのだと感じます。

「3653日目」

塔短歌会・東北 / 編
荒蝦夷 / 刊

こちらも2021年3月刊行。短歌結社「塔短歌会」の東北ゆかりの24歌人、圧巻の1273首です。震災3カ月後の作品集「99日目 東日本大震災のちに」を皮切りに、折々に生まれた歌をまとめた「2933日目 東日本大震災から8年を詠む」までの9冊を集成しました。

震災後初めて詠んだ歌、8年たってようやく吐露できた思い。被災当事者から遠方で「被災」した作者まで、それぞれの感情が五七五七七という乗り物に乗りに、歌に添えたエッセーや座談会、梶原さい子さんの「はじめに」、高野ムツオさんの「解説」など、重層的に紡がれる〈言葉〉が迫ってきます。

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」。

小説と短歌、真実を伝える〈言葉〉
 荒蝦夷「仙台学」編集長 千葉 由香

せんだい・宮城フィルムコミッションホームページ <https://smf-creature.com/mamorare/>

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585